浜松南高校新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前広小路通り　☎53－1186
浜文ビル店　浜松駅前商店（浜文ビル一階）　☎54－0191
高台店　浜松・幸一丁目（ユニー横）　☎73－8118

限界への挑戦

遙かな夢の世界へ

熱気いっぱい ～文化展～

去る六月十三、十四日の二日間にわたって本校の第十七回文化展が開催された。

六月十一日、全国的に梅雨入りが宣言され、前日から降りだした雨は、生徒会員の心配の種だった。昇降口の前に飾られた大きなテルテル坊主も悩には立たず、十三、十四日の四日とも雨に降られてしまった。しかし、その間も生徒の熱気で忘れられていたようであった。

本校創立十九年目の今回の文化展のテーマは「限界への挑戦」ということであった。十代半ばを過ぎたばかりの若者である我々は、毎日が青春である日々を有意義に過ごしているのであろうか。大半の生徒が惰性で高校生活を生きているのではないだろうか。生徒会員の力を奮い立たせる絶好の時である。出したことのない限界の力へ挑む、そんな力を出してこそこの文化展が成功するのである。そんなことが、今回の文化展の大きな意義であったのだと思う。

文化展の準備も二週間ぐらい前になると、各教室の雰囲気が凄くまでついていて生徒のやる気を伺わせた。組で校舎を決める会議が協力しあい、まりよいものにしようとがんばった。

例年通り、校内では工展、部展、バザー、チャリティーバザーなどが行われ、体育館においては、発表会、演奏会、のど自慢決勝などが行われた。

また、雨の中、中庭では、のど自慢予選、集いが行われた。凧は、凧上大会は、惜しくも雨で中止になってしまった。

発表会においては、11、16日恐怖による激しい湿度四部会員が行われ、次に情熱染色による合奏が行われ、そして創作ダンスが行われた。蒸し暑かったが、手に汗をにぎるような人達に対してのような人がいたことはとても興奮を感じた。

発表会の後で行われた演奏会では、各バンドによる演奏が館内を沸かせた。

中庭では、雨の中にもかかわらず多くの生徒が見守る中、出演者は自慢の声を張り上げて決勝進出をかけてがんばった。紙テープ、トイレットペーパー、やじなどが飛び交う中、緊張と興奮が入り混じり歌い終わってホッとする顔が印象的だった。歌っている生徒だけでなく、雨の中、一生懸命拍手を送っている生徒たちに、団結、協力性が見られたのも文化展の見逃せないよいところだ。

校内で行われた工展では、さまざまな趣向が凝らされており、手間のかかったように思われる仕組みが多数ちりばめられた。折角、工夫した工展なのに雨で人が少ないのでは、という心配が生徒の間にあったように思われるが、その心配をよそに人の入りは上々であったようである。中でも、あるクラスでは、教室だけではみ入りきれず廊下にも人の輪ができたほどであった。風車などの細工物があったのも私たちの心を豊かにさせてくれた。

また、部展のほうでは体育館を上映した部員研究同好会や、今、流行のアニメーションを題材にした漫画会員が人気を集めていたようであった。

十四日も雨に降られてしまったため、中庭で行われるはずであったバンドコンサートなどは格技場で行われ、人がとても少なかったようである。その人気を奪ったのが、雨に関係なく行われた体育館での「のど自慢決勝」と各バンドによる演奏だ。のど自慢決勝では、おもいおもいのコスチュームを着い、自慢ののどを張りあげて館内を沸かせた。やはり、決勝だけあって出場者の顔にも自信がみちていたように思われた。出場者が登場する度、テープが飛び、紙吹雪が舞い花束が渡され熱気があふれており第十七回文化展も最高潮に達した。

南高校、文化展の名物と言われるほどの凧上げ大会は、十三日、雨に降られてしまったため、中止になった。そのため、十四日に期待されていたものの、十四日も雨に降られてしまった。

各工展では、凧上げ参員を中心にグループをつくり、毎日導くまで凧を作り、凧を上げるのを待ちつづけていたため、文化展で凧上げ大会が中止になったのは非常に残念に思われる。美しく描かれた大凧が空高く飛ぶのを楽しみに南高に通ってきた生徒たちは、がっかりしていたようである。

高校文化展に来た観客の生徒も多かったであろう。

文化展、最後の締めくくりとして、舞、ねりが行われる。今年も昨年に続いて雨の中でのねりだが、限りない力をいっぱいに出しきり文化展のクライマックスにふさわしかった。

こうして、第十七回文化展も終りになった。

しかし、文化展が成功するにあたっては、文化展実行委員による、ものももちろん、生徒会員の協力団結、南高生としての誇り、自覚なども大きな力になっていたに違いない。

何事もなく、今年も文化展は終わったが毎年同じ文化展で変化が見られないのでは、生徒としては満足がいかない。もっと前向きの姿勢をとり、昨年以上の文化展にする、そのような意気込みがほしいものだ。我々、若者として、新しいものを作り出す、それは、唯一の喜びではないのだろうか。

しかし、雨にもかかわらず大勢の人が訪れてくれたことは大変うれしいことであった。南高校の文化展に来て、何かを心に持ち帰って欲しいものである。

今後も、文化展を成功させるために、生徒間の交流を深め、協力団結を養い育て、高校生活をいっぱい生きることが大切なようである。

若さ発散，E気持ち!!

論説

伝統打破の時

我が浜松南高校は昭和三十八年四月八日に第一回の入学式を挙行して以来、本年度で創立十九周年、来年度で創立二十周年を迎える。来年度には、生活館の建設など、盛大の記念行事が計画されているようであるが、この約二十年間で本校はどのように変化してきたのであろうか。

さて本校の先生方にはとかく〝南高生は無気力だ〟とか、〝何事にも中途半端だ〟とか言われがちである。諸君が本校の生徒ならば、多少なりとも不快感を味わうと思うが、反論しようにも現実は厳しい、というのが現状である。まあこれは結果論ではあるが、勉強の方面にしても、部活動の方面にしても、これといって目立つような成果はみられない。全てが全てそうだとは言わない。が、しかし、第三者の立場となって本校を眺めたならば、これほど平凡な学校があったなんて……と考える人も少なからず居るだろう。

本校の二十年という歴史を顧みるのには、まず何よりも創立以来、現在に至るまでの間を貫く伝統を見つめ直すべきではなかろうか。今も昔も共通している南高気質の中核、それはいわゆる三無主義である。過去にも本校新聞の中で、三無主義を訴えたものが幾つかあったが、その最大かつ最も難解な問題に解決されているどころではない。年を追う毎に、次第に広く生徒間に浸透してゆくばかりである。このことに対して本校の教師陣は、以前から改善への努力を続けてはいるようだが、このせっかくの教訓も我が生徒諸君にはまったくしく〝馬耳東風〟である。この南高を形成している最大の因子は我々生徒である。校則などの規制はあるものの、我々生徒会員が右を向けば、必然的に学校そのものが右を向いてしまうのである。これは多少突飛なことではあるが、つまり南高と言えばその構成員を言うのであり、その我々が〝三無主義〟に立ち向かう熱意を、又、〝自分達の南高を形成しているのだ〟という自覚を持たずしてどうするのか。このままでは、本校はお先真暗である。

我々は、そして本校は模木に例えるならば、まだ若木の段階であると言えよう。これからどう伸びてゆくのか、無限の可能性を秘めてもいるし、同時に、いつ朽ち果てしまうかもしれない危険性をも帯びている。これから先は我々が自分自身を自手でつくってゆくことができるのである。現在の状態のままそのまま伸びてゆくのか、それとも新たに飛躍を遂げてゆくのかは、南高生一人一人の自覚によって決まると思う。これから先は我々が自分自身を自ら手で作ってゆくことのできるうち、過去の歴史の中で堕落し、腐り切った部分を排除し、その残された、学ぶべき点の多い部分だけを、今後の時の流れに取り入れてゆくことが最も重要なことだ。

今、実社会の中には、人々に深い感動を与えてくれるものが多くある。時勢たるの文学作品絵画、彫刻などの芸術作品、スポーツに打ち込む若者の姿、などその一部だが、これら様々な真の革新と言えるのではないだろうか。過去の歴史の中で、堕落し、腐り切った部分を排除し、その残された、学ぶべき点の多い部分だけを、今後の時の流れに取り入れてゆくことが最も重要なことだ。

今、実社会の中には、人々に深い感動を与えてくれるものが多くある。時勢たるの文学作品絵画、彫刻などの芸術作品、スポーツに打ち込む若者の姿、などその一部だが、これら様々な真の革新と言えるのではないだろうか。過去の歴史の中で、堕落し、腐り切った部分を排除し、その残された、学ぶべき点の多い部分だけを、今後の時の流れに取り入れてゆくことが最も重要なことだ。

時の流れはとまることはない。時世は絶えず変化してゆく。今のこのひとときも、しばらく時を経れば遠い昔の思い出の一頁となる。まして南高での生活はわずか三年間、この三年間を進学や就職への単なるステップとして過ごすのではあまりにも惜しい。これから学校生活の一途をたどって行くべき我が南高のために、その出発点が熱き、きっかけを作って行こうという自覚を、現在、在校している我々が担わねばならないのである。先輩方が作ってくれた二十年の伝統を、今後継承していくのは、我々の義務である。創立二十周年を迎えるこの年、校内に漲ったけたたましい活気が打破し、一掃するチャンスなのである。

H・Y

新生活に望む

座禅に学ぶ心

《集団訓練》

山に囲まれた静かな奥山方広寺で、五月十五日から十七日までの三日間にわたって、集団訓練が行われた。これは、高校生活へのオリエンテーションを兼ねて、一、基本的生活習慣の確立、二、集団生活における自由と規律の体得、三、教師と生徒、生徒どうしの人間関係の育成の三つを目的とするものであった。

研修内容の主なものは、法話・オリエンテーション・野外活動・H.R毎ディスカッションなどであった。

一日目、八時三十分に浜松を出発し、静岡県の風来寺で昼食をとってから、十四時に目的地方広寺に着いた。そのときちょうど、浜松東高校の生徒が出ていくところだった。

入寮、入所式を済ませ、十七時三十分に夕食となった。禅宗のお寺での食事作法は厳しく、手手を合わせ、「食事五観」を唱う。これが、次の五つのことである。一、功の多少を計り彼の来処を量る。二、己が徳行の全法を計って供に応ずこと。眼を防ぎ過貪等を離るを宗と。三、正に良薬を事とするは形枯を療せんが為めに当に此の食を受くべしそれから、一言もしゃべらないように食べる。

その後、十九時から、一時間にわたって、法話をきいた。〝禁書〟の意を大切にせよ。正々堂々とした行動をとれ。〝といったことが主な内容だった。

続いて、オリエンテーション（明日の活動事項）、反省、日記で一日目の修行が終わった。

一日目のせいか、疲れた様子はあまりなく、消灯時間を過ぎても騒がしく、しかられた部屋もあったようだ。

二日目、六時から、座禅が行われた。ほとんどの人が、初めての経験であり、〝足がしびれた〟〝眠い〟などの声がきこえた。

朝食後、仏間のオリエンテーションでは、講師の法要方法、各教科の勉強法などについて講演が行われた。この際色々と厳しいことを言われ、改めて、高校の勉強の厳しさを痛感した人も多かったのではないのだろうか。

その後、野外活動に出発した。奥山高原で校歌等歌唱の練習をし展望をとったあと、ハイキングコースを通って、富幕山（五百心）の頂上まで登った。美しい時の流れは、まるで、夢のようであった。これは、中日新聞にも紹介されたので、知っている人も多いことと思う。

十九時、H.R毎ディスカッションが行われた。題は、「友情」、「勉強と部活の両立」などといった高校生活に関するものが多かったようだ。これも重要な課題となったであろう。

二日目の修行も終わり、二十二時に床についた。もっとこのころには、みな、慣れてきた様子であった。

三日目、この日も朝は、座禅で始まり、八時から一時間、法話をきいた。それは、〝心のよりどころ〟、〝平素心掛けなければならない「日常の五心」――反省の心・素直の心・感謝の心・奉仕の心・感謝の心――といった内容で、講師は、笑いを交えながら話してくださった。

一日目の法話の時もそうであったが、私語が多少なりともあったのは、残念なことであった。

続いて、反省として、H.R反省・清掃が行われた。反省として〝ありがたかった〟〝しかられてしまった〟などの意見が多かった。

昼食後、解散のオリエンテーションが行われ、各教室の清掃が行われた。ほとんどの人が、初めての経験であり、〝足がしびれた〟〝眠い〟などの声がきこえた。

一日目、六時から、座禅が行われた。ほとんどの人が、初めての経験であり、〝足がしびれた〟〝眠い〟などの声がきこえた。

朝食後、仏間のオリエンテーションでは、講師の法要方法、各教科の勉強法などについて講演が行われた。この際色々と厳しいことを言われ、改めて、高校の勉強の厳しさを痛感した人も多かったのではないのだろうか。

その後、野外活動に出発した。奥山高原で校歌等歌唱の練習をし展望をとったあと、ハイキングコースを通って、富幕山（五百心）の頂上まで登った。美しい時の流れは、まるで、夢のようであった。これは、中日新聞にも紹介されたので、知っている人も多いことと思う。

十九時、H.R毎ディスカッションが行われた。題は、「友情」、「勉強と部活の両立」などといった高校生活に関するものが多かったようだ。これも重要な課題となったであろう。

二日目の修行も終わり、二十二時に床についた。もっとこのころには、みな、慣れてきた様子であった。

三日目、この日も朝は、座禅で始まり、八時から一時間、法話をきいた。それは、〝心のよりどころ〟、〝平素心掛けなければならない「日常の五心」――反省の心・素直の心・感謝の心・奉仕の心・感謝の心――といった内容で、講師は、笑いを交えながら話してくださった。

一日目の法話の時もそうであったが、私語が多少なりともあったのは、残念なことであった。

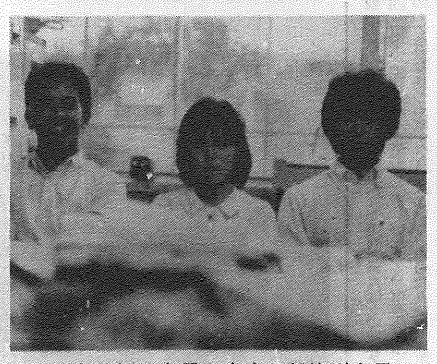
続いて、反省として、H.R反省・清掃が行われた。反省として〝ありがたかった〟〝しかられてしまった〟などの意見が多かった。

昼食後、解散

新たな息吹きを

＝生徒会＝ 挑め大いなる革新

伸びゆく南高に



▲左に坂口会長，中央に都筑副会長
右に青葉副会長

〈会長〉
33HR　坂口　徳一

月日が過ぎるのは早いもので、僕が会長に就任してはや三ヶ月が過ぎようとしている。文化展も、二百間弱であったとはいえ、成功に終ったという事は、大変うれしく、肩の荷が一つおりた気がする次第です。

我々は、しばしばそこに行事があるからそれをするといったように、物事をなりゆき、あるいは状勢で処分しがちである。現在の生徒会もそんな状態で、そういった意味において、我々の任期を、今までにないタイプ、また一つの転換を志向して、我々の生徒会を作り上げていくことに、全力を傾けたいと思います。そのためには、是非皆さんの御協力をお願いしたいのです。生徒会は生徒全体の組織であって、本部役員のものではないのです。くどいようですが、みなさんの力で成り立っている生徒会です。御協力を。

〈副会長〉
39HR　都筑　仁美

副会長の仕事がどんなにむずかしい仕事だとは、思いませんでした。なぜなら、これといった仕事がないからです。私が今、頭の中にある副会長の仕事は、生徒会の女子をまとめること。各委員が仕事をしやすい状態にすること。みんなの仕事をかしでも多く手伝うこと。このくらいしか、今私の頭にうかびません。私は、この中の仕事を、どのくらいやってきたでしょうか。前期の一大行事である「文化展」も無事終わりました。あいにくの雨で、去年より多くの入数を集めることはできませんでしたが、失敗ではなかったと思います。残された最後の仕事である「送辞大会」を無事終わらせ、後期に引き継ぎたいと思います。

〈副会長〉
35HR　青葉　匡彦

ロマンの香りが漂うこのごろ、生徒会が新しく船を漕ぎだす季節である。一年間生徒会に携わった僕は、今、一種の解放感と虚しさがのこる。いったいこの気持ちはどこからくるのだろうか。これからは、副会長という重大な任事から解放されるが、しかしあと半年を、すべて勉強にうちこまなければならないと思うけどどうかな。

ところで副会長として僕はどのようなことをしてきただろうか。副会長という仕事は一般的には雑役である。これといった目立つ仕事ではない。しかし精神的にはすごい気をつかうのである。前期は文化展がおもな仕事だが、それでずいぶん骨がいたくなったものだ。なぜといってきたが、まわりをみると楽な仕事であった。やったねパパ、横浜君は洪人決定だ。

〈生活委員長〉
34HR　袴田　英則

仕事などというものはすぐ見つかるものなのでしょう。生徒会室ではそれぞれが自分の仕事をしているのです。しかし、私は仕事を見つけることができないのです。生徒会に入って最初のころのことでした。

生活委員会がなぜ存在しているのかでしょう。それは生徒が生活するにおいて、潤滑油の役目を果たしてとそ、実に生活委員会というものの存在が認められるのでしょう。私はその役目を半分も果たしていません。

私が思うに、私の後に生活委員長になる人が、生活委員会の仕事を遂行し、すばらしい委員会にしてくれるよう願います。

〈文化委員長〉
33HR　横張　晴彦

文化展は私の力の無さにより、今ひとつの盛り上がりに欠けてしまいましたが、みなさんの御協力によりまして成功まで漕ぎ寄ることができました。文化展執行委員長として、お礼申し上げます。

さて、文化展を終えてしまうと文化委員長としての仕事は、ぐっとなくなりますが、これからは補力隊の存在になり、一生懸命がんばりたいと思います。これからも、あたたかい目見つめてくれるようよろしく御願い申しします。

〈社会参加委員長〉
39HR　萩原　逸子

私がこの役についてから「何をすべきか。」を考えて参りましたが、ひとたび動きにのると次々と仕事がでてきまるのです。仕事の内容としては、耳にあった浜松子ども憲章の実践、チャリティーバザー、文化展でのチャリティーバザー募金、手の不自由な方の美術作品への販売協力、その消印き捺きの活動としてローズスターン切手の収集です。私は、この三カ月、この役について感じた事は、この委員会は、会長生徒皆さんの努力なしでは、何の活動もできないということです。しかし強制を強いれないのが他に誇りの種でした。人は誰でも幸せを願い自分より尊い人を救いたい気持ちは、常にあると思っています。

〈交通委員長〉
31HR　坂本　龍大

三ケ月余り生徒会としての仕事をしてきて大変疲れました。今回前期の役員は文化展にいう二大行事があったので余計にそうだったのかも知れません。しかしそれだけの仕事をするにあたっての自分自身の責任という自覚を、肩で感じることができました。一学期間そう大した仕事もできませんでしたが、これといった交通事故もなく無事に済んで本当によかったと思います。みなさん、交通事故にはくれぐれも注意しましょう。

▲新任の諸先生方

南高前進のために

新任紹介

昨年、県教育委員からの人事異動が決定する度毎、数名の先生方が、我が南高を去られた訳だが、新たに、九人の先生方が赴任された。その内新卒の先生が二人おられる。四月当初から三ヶ月余りたったが、諸先生方は早くから南高の雰囲気にとけ込み、張り切っておられるようだ。そんな先生方に新聞部から、質問させてもらい、現在の心境を率直に答えて頂いたそれでは、九人の先生方を簡単ではあるが紹介しよう。

▼伊村才次郎校長先生
出身校　東京高等師範学校
教師歴　32年
（榛原高校を18年。吉田高校4年、県教育委員会10年勤められている）

趣味　スポーツ、園芸
特技　剣道二段、銃剣道初段、とにかくスポーツ万能で教員サッカーチームの一員として国民体育大会に3回出場した経験をおもちである。

本校の印象は、落着いている、しかし、気力にとぼしいということだ。校長先生は、活力のある学園づくりを抱負とされている。

そして、南高の生徒には、勉強に運動に自分の力を出し尽くし、思いやりのある人になって欲しいとおっしゃっていた。

▼藤田八郎先生
出身校　名大岡崎高師
教師歴　32年
担当教科　理科

南高の印象、残念なことが活気があまりないそうである。

生徒に望むことは質問すると「もっと勉強して下さい。」と、少し耳の痛い言葉が返ってきた。一見、威厳たっぷりの藤田先生ではあるが、家族構成のことは、遠慮しながら、妻一名男子二名と答えられた。

▼野田直治先生
出身校　名古屋大
教師歴　十六年
担当教科　理業

南高の印象　おとなしく、静かであるとおっしゃられた。

生徒に新聞を読むことをすすめておられる。

先生は定時制高校に通われ、職場と学校の両立という苦い思い出を、体験なされている。家族構成は、妻、子供一人。

▼水越一夫先生
出身校・神戸大
教師歴　3年
担当教科　社会
家族構成　4人（長女四歳。）

先生の高校生時代は、真面目であったそうだ。担負は本をつくることである。

▼鈴木均先生
出身校　大阪大学工学部
教師歴　5年
担当教科　数学

何事にも、まず行動して失敗したらやり直すという姿勢で頑張ったと抱負を語られた。高校生の頃はテストが終わる度に海岸へ見に行くことを楽しみにしていらしたそうだ。

▼杉浦高敏先生
出身校　国学院大学
教師歴　8年
担当教科　社会

まず、「浜松」について勉強をしたいと抱負を述べられた。意欲が感じられる先生である。

祖父、父母、妻の五人家族。

▼市川和志先生
出身校　南山大外国語学部
教師歴　5年
担当教科　英語

駄洒落と冗談が好きなそうで、一部の生徒にはイヤー顔を教えているとおっしゃっていた。

▼谷野純夫先生
出身校　（浜松西高）、小樽商科大学商学部、大阪大学　文学部
担当教科　英語

今年初めて教壇に立たれ何事にも全力を尽くしたいと張り切っておられる。高校時代にはいつも山へ蝶取りに出かけていたという先生である。

▼増田尋夫先生
出身校　東京都立大
担当教科　社会

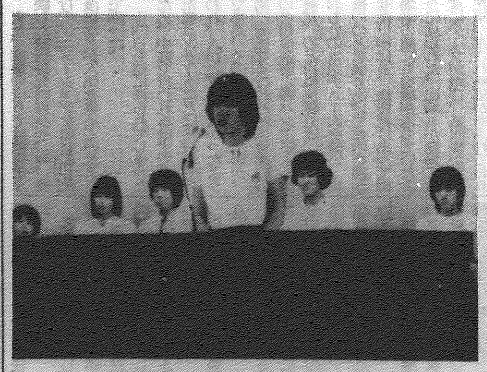
同じく南高が初めて赴任された学校で、アカデミック校風という印象を持たれたそうだ。独身生活を、有意義に送られているようである。

それぞれに個性あふれる先生方である。今後のご指導に、一層熱意が感じられてくるようで、ご多忙にもかかわらず、協力頂き、ありがとうございました。

〈部活動〉

全国への足掛り

迸る汗を拭って



▲抱負を語る女子バスケット部

寒暑のはっきりしない毎日から〝暑い〟一色の日に変わり、流れる汗も気持ちよく感じることができるようになった。

さて、三年生から、一、二年生にバトンタッチされ、ますますはりきっている部活動。そこで、特に運動部の抱負を語ってもらったので、試合結果といっしょに紹介してみることにしよう。

○サッカー
高校総体県大会予選
0―1富士商

○陸上
インターハイ予選
三位既9位　山本将師
13M71

○柔道
県大会西部予選（個人の部）
和田貴一　県西部ベスト8

○ハンドボール（男子）
西部地区予選
13―17気賀
12―16城北工

○ハンドボール（女子）
西部地区予選
2―12気賀
8―13三倶

○バレーボール（男子）
インターハイ西部予選
0―2袋井商

○バレーボール（女子）
インターハイ西部予選
0―2横須賀

○ソフトボール（男子）
県大会
0―5沼津学園

○軟球（男子）
県大会（団体戦）
0―4下田北
1―4下田北

○テニス（男子）
県大会
シングルス（対　焼津中央）
加藤6―2
ダブルス
鵜田、中村7―6
シングルス（対伊東商）
加藤4―6
ダブルス
鵜田、中村1―6

○テニス（女子）
県大会
シングルス（対　韮崎）
杉山4―6
ダブルス
小梅　増井1―6

○バスケット（男子）
県大会
47―100　日大三島

○バスケット（女子）
県大会　準々勝
69―57浜松西
50―37浜松西
73―66静女高
60―59藤枝西
48―51静女

〈決勝〉
東海大会
65―68沼津

どの部活にも勇ましい顔が見られるが、もう少しがんばって、今以上の立派な成績をとってもらいたいものだ。

次に、各部活の今後の抱負を、紹介しようかな。

▽今年度の部活として認められた女子ソフト部、「公式試合で一勝を。」を、目標として、みんな張り切って練習に頑張っている。

▽剣道部は、去年以上の好成績をとるために、「心身の鍛錬」をモットーとして、毎日の練習に汗を流している。

△女子ハンド部は、先輩達の残した記録をどこまで上回ることができるか、チームワークの良さでがんばりたい、と言っている。

▽今年の水泳部は、部員が、かなり増え、県大会出場を目標に、みんな張り切っている。

▽女子テニス部は　練習の成果を発揮できるように、自分自身の欠点を直しがんばっていきたいと、言っている。

▽男子ハンド部は、三年が流した涙を直び見ることがないように、県大会出場を目標とし、がんばっている。

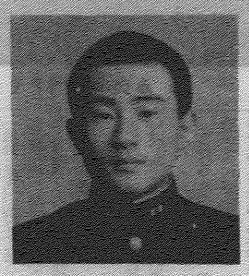
▽卓球部の目標は、先輩が残してくれたシードをとられないようにすることと、一試合でも多く勝つことだそうだ。

▽男子ソフト部は、全国大会を目標とし、伝統を汚さないようがんばりたいと言っている。

△女子バスケ部の目標は、「八校リーグで三位以内入賞」という事であった。この部は、県大会は勿論、東海総体、インターハイにも選抜同様出場しており、今年も見事、東海総体への出場権を奪った。このすばらしい結果を励みとして、バスケ部は勿論、他の部活も頑張って欲しいものだ。

先生の高校生時代

赤石に誓う自信



高塚和夫先生

私の高校生時代のことを書いて欲しい、とおわれて、久しぶりに当時のことを思い出し、懐かしく感じているところだ。というのは、私の高校生活の中には苦しいことも多くあったけれども、そのような苦しみも今振り返ってみれば、良い思い出でありあるいかりが胸に残っている。自分なりにエンジョイできた二年間であったと思っている。また、無遅刻、無欠席で横川の在より島田の学校まで電車でよく通ったものだ、と自分でも感心する。

それというのも、好きな部活動に真剣になって取り組んでいたからかも知れない。私が在籍していたのは山岳部である。この部活に入ったのは、小さい頃からのお供で、よく山へ行ったからである。この部活がまたかなり厳しい部活だった。しかし、それと同時に自分にとって本格的な山との出会いが始まった時期でもある。毎日毎日、三千m近いキスリングを背負いながら、本当に三千m級の山に登ることができるのだろうか、一年の時、夏山に向けて練習しながら、何回そう思ったことだろう。砂をキスリングに詰め、校舎の三階まで二往復した時は、まだ記憶に新しい。苦しい練習だったが、それが今の自分を支えていてくれているのだと思っている。

初めて登った山は赤石岳だ。カールに咲く高山植物、三千Mの展望、本当らしい景色に感動のあまりとなった。と同時に、この登山によって自分自身に自信がついた。

一方、その当時の登山は、なかなか自分の思う通りにはいかなかったような気がする。特に夏合宿は、自信がつきもう少し専門的にやっていたなら現在にまで至っている。そのきっかけを作っていただいた先生は、現在も我々の指導者であられている方でもある。

私の高校生時代に残ったものは一体何だったのか、と考えると自分に自信をつけるきっかけを作っていただいた良き教師、部活動で自然と大人に語り合えたこと、その自然と語り合うための手法を厳しく教えてくださった厳間の先生と先輩達。それらのことが、現在の私の生活の中にかなり入り込み、まだ役立っている気がする。しかし、高校時代に得たものの中で一番大きなものは、自分自身への自信がついたことだと思う。赤石岳登山によって得られた自信、苦手意識を持っていた教科を克服したことによって得られた自信がその他のことにも自信をつかせ充実した青春時代を送ることができたのである。

一つのことに自信がつくと、自然に他のこともできるようになってくる。なんでもできるようになるこの自信というもの、不思議なものである。

HR便り

毎日クラス単位で活動している私達。そこには喜び、喜怒哀楽があること思う。そこで今回はその実態を調査すべく次の2クラスにスポットをあてた。

▽25HR（A我がHR は、一躍の一番東担任の初つぁん曰く「南高の別荘地」にある。また、男子ばかり四十八人のクラスである。

そんなわけで、休み時間になると、トランプ、将棋が発達し、漫画本が開かれる。トランプなどはポピュラーなものだが、このクラスでは何しろ親戚が多い。多い時には、五か所でやっているのである。これでも感心させたろうか。

とは言っても、先日の中間テストではクラスとしてはまずまずの成績を収めた。やればできるのだろう。我々の別荘には、南高全体が羨ましい時、静かにやれるという利点もがある。だから、トランプを教科書に代えれば、いい結果をもたらすだろう。そうなることを目指して、クラスを盛り上げ、中だるみの時期を充実させたい。

▽33HR（A33HRは男子38名女子5名のハチャメチャな仲間が集まっている。担任は大石達男先生副担任は坂上敦志先生である。

とにかくやもしろい連中が多いのである。ガン飛ばしのH君、副そうじのR君、漫才のM君、居眠りのH君、はたまた生徒会長、文化委員長まで揃っており、素晴らしくバイタリティにあふれたクラスなのであります。

しかし自慢できる点もあります掃除です。眠る眠りがあったら掃除する、といった感じで、掃除に生き甲斐を感じている人も数多くいるようです。

こんなクラスですが、まとまりなら他に一歩もひけをとらない、と筆者は思いますがいかがなもんでしょう？あと半年、全員が無事卒業できればいいのですが――。

編集後記

梅雨も明け、紫陽花も一つ二つ姿を消し、あとは夏休みを待つばかりとなりました。この貴重な時間を利用し、自分自身大いに飛躍できるよう勉強に運動に全精力を傾け、有意義に過ごして下さい。

我新聞部も一、二年生を中心として第六十一号を発行するに至りました。共鳴して下さる部分がありましたら光栄に思います。

今学期は五月三十日に浜商新聞部が来校したり、学校行事の中では文化展があったりして瞬く内に過ぎてしまったようです。しかしこの忙しさの後には素晴しい充実感があったと思います。三無主義という言葉を此頃よく聞きますが文化展で溢れ出ていた活気を日常生活の中にも生かして行きたいものです。

現在、皆が興味を持って読んでくれるよう新しい企画を練っている最中ですが、まだまだ未熟ですので、意見や感想がありましたら是非新聞に投書して下さい。それを基に次号はより素晴しい新聞を作成したいと思います。また、現在部員募集中です。自分の意見を兼ねた人、時間が余っている方など気軽に来部して下さい。

読書ガイド

名探偵なんか怖くない

西村京太郎作

世界の名探偵を一堂に集合させ、難解な事件の解決を競わせるというユニークなパリ司法警察の警視ルエル・ポワロ。そして日本の明智小五郎。この四人を集めての推理の競演ということになれば推理小説ファン必見の試験を作り上げたと言ってもいい。しかし名探偵達に関係した人物たちの中に描かれたイメージ、ファン独自の胸の中で描かれた実像、虚像がくまじっている。そのため彼らを登場人物として推理する以外に面白くない。それらを生かすために作者は細心の注意を払って執筆している例えば、明智小五郎を登場させれば、「人化幻戯」や「魔術師」「吸血魔」など具体的な作品を挙げることによってファンの中に存在する名探偵明智小五郎を演出することなく指導していても同様である。

そして名探偵達に実力を十分に発揮させる事件の舞台として作者は「三億円事件」という現実に起った事件を利用した。

それは、佐藤大造という富豪が、三億円事件を解決しようとして、アカデミック校風という印象を持たれたそうだ。独身生活を、有意義に送られているようである。

それぞれに個性あふれる先生方である。今後のご指導に、一層熱意が感じられてくるようで、ご多忙にもかかわらず、協力頂き、ありがとうございました。

（講談社文庫　三百円）

鵺編　名探偵が多すぎる

四人の名探偵と怪盗ルパン・侯爵人二十面相との奇妙な対決。

（同　三百六十円）

南高校ロックバンド大歓迎！
エレキ・アンプ・キーボード・フォークギター
楽譜（ロック・フォーク）豊富にそろえました
フォーク エレキ　輸入セット弦・3割引！
音出しOK！　谷島屋3F　楽器コーナー
浜松市連尺町26　TEL 53―9121

今年の夏休みは
ご家族お揃いで
神戸博ポートピア81へ
ポートピア81
夏休み特別企画　ブルートレイン＆新幹線
旅行日8月10日(月)～8月11(火)　1泊2日
会費　浜松発　大人 27,000円　高校生 26,400円
中学生 26,200円　小人 19,000円
今ならまだ間に合います。お申し込み問い合せは
主催　日本交通公社
〈運輸大臣登録一般旅行業第64号〉
旅行業務取扱主任者　石川国雄一
TEL 0534―53―2121
54―6981
浜松支店

浜松幸町店
7月25日AM10:00
OPEN！
住吉バイパス沿（青年婦人会館前）
ケンタッキーフライドチキン

登山用リックサック・スポーツバック
旅行鞄専門店
浜松駅前広小路
辻梅　TEL 52―6015

チーズケーキと
チョコレートケーキ
ヨーロッパケーキの
まるたや
静岡県浜松市鍛冶町96番地
電話 浜松(0534)52-1496　53-4708